

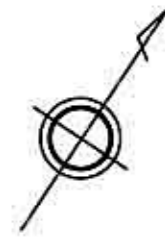
子飼橋～長六橋

都市部において、比較的単調な河道となっていますが、銀座橋から代継橋付近には州が形成されており、ホンサナエやメダカの生息が確認されています。

この区間は洪水対策として、河岸掘削しますが、現在の生息空間が再現できるように配慮して工事を行います。また、明午橋から大甲橋についても洪水対策の工事と合わせて、生態系に配慮した水辺づくりを行います。



● 熊本城



住民の主な意見の反映

多数寄せられた意見の集約	特に具体的な意見
自然や生物に配慮した整備を望む	大学病院橋のようなカラータイル舗装は無駄。魚が生きやすいような川になって欲しい。10年ほど前は大甲橋近くでも魚釣りの人達が多かったが現在は全く見かけない。鶴田公園および、対岸の木の茂みには、カマセミ、ムクドリ、セヨドリ、シジュウカラなどたくさんの鳥がいるのをご存知でしょうか。私は33年間、白川を心のよりどころにしていました。安易な開発はやめてください。一度こわしたらもともともどり返りません。
樹木を残して樹木を増やして	代継橋以下は殺風景。小さな木でよいから植えて欲しい。もう少し木々が欲しいところである。長六橋から大学病院方向へ、森の都の面影は熊本城と白川の川岸（特に大甲橋上流）以外にはもうなくなった。特に白川、大甲橋上流の古木、老樹、正面の立田山の緑は地域住民の気持ちを落ち着かせる最後の景観である。
自然を回復して欲しい	子供の頃、大甲橋の下で泳いだり魚をすくったりして遊んだ。水もきれいだった。そういう白川にしてほしい。



凡例	解説	備考
樹木群	川幅に余裕がある箇所に植樹を図り、野鳥の飛来する場をつくります。	事業主体について、地域や自治体と調整を図り、洪水に対する安全性を確認しながら取り組みます。
水質観測所	水質を観測して結果を公表し、水質向上の意識を高めます。	
水辺づくり	河岸掘削後、生物が住みやすい空間となるように整備します。	ホンサナエやメダカの生息空間を回復します。
保全対象生物	保全が望まれる生物です。	

河川整備計画図(河川環境)